

「室戸完歩」の思い出

本校の伝統行事「無限会」、今年のコースは3つあるコースの中で、最もアップダウンの激しい「飢肥・酒谷コース」、総延長28.3kmの予定でしたが、コロナ感染防止策として、密になるのを避け、マスクを着用しての歩行となるため、急遽「吉野方コース 14.1km」に変更して実施します。

吉野方地区は私の出身地です。子供の頃は、春はタケノコ掘りや山菜採り、夏はクワガタ摂りに魚摂り、稲刈りが終わると田んぼで野球、秋になると柿をちぎったり栗を拾ったり、冬になると鳥もちでメジロを捕まえたり、ミカンをとりに来るサルを爆竹で追っ払ったり、とにかく一年中、山の中を駆け回っていました。コースの下見をしながら、そんなことを思い出していました。

さて、去年と同じ話ですみません。高知大学にも伝統行事の「室戸完歩」という行事があります。高知市の西にある大学のキャンパスから室戸岬までの約88kmを夜通し歩くというものです。(日本地図でも歩いた区間が分かる。)

10月の終わりか11月の初めぐらいだったと記憶しています。本来は自由参加ですが、スポーツ系のサークルに所属している学生は半強制的に歩かされます。

1年目は、体力温存作戦でややゆっくりめに歩きました。しかし、徐々に体力を奪われ、まだ半分も歩いていないのに足がパンパンになり、膝が曲がらなくなり始めました。この状態であと半分以上も歩かなければならないことに、急に不安になり始めました。車でサポートしてくれるはずの先輩は夜の10時を過ぎてもなかなか来てくれず、汗で湿った空手着一枚しか着ていなかったので寒さを感じ始めた。今みたいにコンビニがどこにでもあるわけではなく、自販機でホットドリンクを買いたくても、時期的にまだ冷たい飲み物しか販売していなかった。遠くから近づいてくる車の上向きのライトが眩しくてイライラし、車道と歩道の段差さえ上り下りできなくなり、とうとうその段差に腰掛けながら眠ってしまった。(とても危険!)

夜中に寒さで目が覚めて再び歩き出した。今ここが何キロ地点なのか全く分からない。ときどき後ろから来た人に「頑張りましょう!」と声をかけられて抜かれていく。しかも女性だ。

それにしても先輩はまだ来ない。とても孤独だった。左は海岸段丘の壁のような山、右は太平洋。何も無い。街灯もめったにない。そんな道を意地だけで進んでいると、うっすらと見える山の輪郭の先端に灯台の光が見えてきた。「室戸岬の灯台に違いない。」そう思うと少しやる気が出てきた。徐々に大きくなっていく灯台の光。自分を励ましながら進んでいくのだが、どうもおかしい?普通ゴール近くになると「あと500m」とかいう看板があってもいいはずだし、灯台下のゴール付近には明かりがあり、たくさんの人がいてもいいはずだが、そんな気配は全く無い。それもそのはず。そこはまだ64km地点(ゴールまであと24km)の羽根(はね)岬という岬だったのだ。

「くそ~!なんというまぎらわしい岬だ。」帰りたくなってきたが先輩はまだ来ない。泣きたいくらいの絶望感に襲われた。

(裏面に続く)



と思ったら、そこから10kmぐらい（実際は14km）先の方にまた灯台の光が見えている。

「お～～、今度こそ室戸岬に達しない。よっしゃあああ！」と再び気合を入れ直して歩き出した。足はもう限界だったが、最後の力を振り絞って痛みに耐えながら歩いた。しかし、直線的な道路が続き、歩けど歩けど灯台の光は近くならない。その湾岸道路は日南海岸の道にも似ており、急に日南のことを思い出し、本当に泣きたくなってきた。それでも道端で拾った棒を杖に、2つ目の灯台の光がゴールの室戸岬だと信じ、一步一步進んでいった。しかし・・・その灯台の光は、78キロ地点（ゴールの10km手前）の行当（ぎょうとう）岬であった。何かにだまされているんじゃないかと、信じられないほどショックだった。既に夜が明け、更なる湾の向こうに正真正銘の室戸岬が見えたが、そのときはそれが室戸岬だとは信じられず、たとえ本物の室戸岬であっても残り10kmの道のりを歩く体力は残っていなかった。気力も体力も限界。ここで無念のリタイヤ。風が吹き始め、風よけのために空手着を頭からかぶりしゃがみ込んでいると、ついに先輩がサポートに来てくれた。先輩にリタイヤすることを告げると、「よう頑張ったな。」と健闘をたたえる言葉をかけてくれて、2人で私の体を持ち上げ車に収容してくれた。帰りの暖かい車の助手席でリクライニングを倒し、うとうとし始めたとき先輩が「まあ来年は頑張れよ。後輩もできることだしな・・・」と衝撃の言葉を言い放った。1度完歩すれば翌年からはサポートに回れるが、完歩できなければ再チャレンジするのが部の伝統なのであった。

2年目は、ドライブでも何度か室戸岬へ行き、下見はバッチリ、作戦も先行逃げ切り作戦に切り替えた。前半はずっと走り続け、ほぼ中間地点の安芸市（約42km地点）に着いたのはスタートから8時間後の午後9時ごろだった。昨年ほどの足の痛みもなく、空手着の下にトレーナーを1枚着て寒さ対策もばっちり、あの羽根岬、行当岬にもだまされることなく順調に通過した。行当岬から先を歩くのは初体験。湾沿いの道を歩いているので灯台の光が遠くなっていくように見えたが、そこは下見の甲斐あってゴールまでの距離に確信はあった。

さすがに80kmを過ぎると疲れは隠せなかったが、そこでサプライズが・・・

沿道の民家で元気のいいおばあちゃんがちょうど手頃の大きさの焼き芋をふるまってくれていたのだ。これには感動した。そんな温かい声援をもらい、室戸岬の*中岡慎太郎銅像前に着いたのは午前7時ぐらいであった。

総距離：88km 時間：18時間 平均速度：4.9km/h



※中岡慎太郎【なかおかしんたろう】
幕末土佐（とさ）高知藩の尊攘派志士。名は道正（みちまさ）。武市瑞山の土佐勤王党に参加。勤王党弾圧後は脱藩して討幕運動に奔走。坂本竜馬とともに薩長同盟の実現に努力。1867年脱藩を許され、陸援隊を組織して藩に協力するが、竜馬とともに京都で暗殺された。
高知市の桂浜にある坂本龍馬の銅像はあまりにも有名だが、室戸岬には中岡慎太郎の銅像が太平洋を見下ろしている。

週行事予定表

(10/8~10/22)

月	日	曜	行事予定	FT	課外	備考
10月	8	金	中間考査3日目 国際理解講座	×	×	8:15 登校
	9	土	英検1次			
	10	日	宮崎東高校スプリング			
	11	月		○	○	7:25 登校
	12	火	⑤⑥選択科目内容説明会（1年）	○	○	7:25 登校
	13	水	⑩各種委員会V 寺子屋にちなん	○	○	7:25 登校
	14	木	⑦⑧人権教育II・セルフチェック（80分）	○	○	7:25 登校
	15	金	第53回無限会（吉野方コース）	×	×	8:15 登校
	16	土	土曜講座A 駿台模試（1,2年探究+希望者）ベネッセ・駿台記述模試（3年）			8:15 登校
	17	日				
	18	月		○	○	7:25 登校
	19	火	三校合同PDA（24HR）	○	○	7:25 登校
	20	水	寺子屋にちなん	○	○	7:25 登校
	21	木	教育課程説明会（1年）	○	○	7:25 登校
22	金	教育課程説明会（2年）	×	○	7:25 登校	